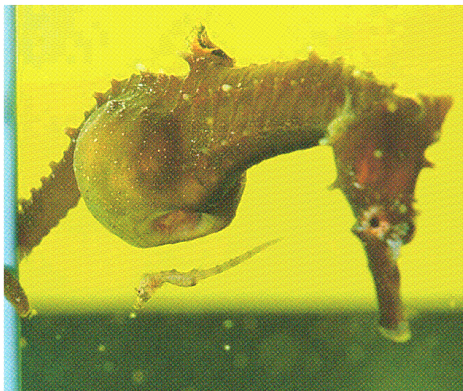
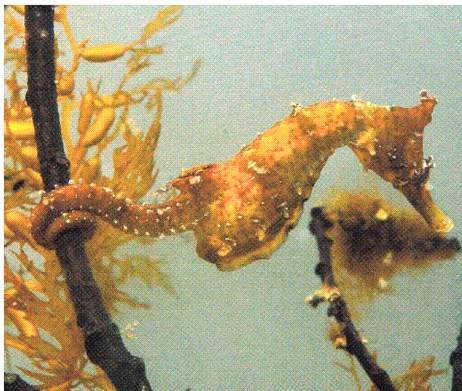




④尾を海藻に巻き付けるタツノオトシゴ⑤子どもを育てる雄と、育児嚢から出てきた子ども

タツノオトシゴ

学名 *Hippocampus cornatus*

雄が“出産”する

- 生息地 熱帯・温帯域の沿岸浅海
- 大きさ 5～10センチ
- 食べ物 魚卵、甲殻類などの小型の動物プランクトン
- 特徴 尾を海藻などに巻き付けて体を直立させ、顔を前方に向ける姿勢を取る。和名の「竜の落とし子」や英名の「seahorse」は、この姿勢が竜や馬に似ていることに由来していると考えられる。古くから漢方薬の材料としても使われており、近年では乱獲されて、絶滅が危ぶまれる

おもしろ生き物図鑑

かこしま水族館から

「小さき者よ。不幸なそして同時に幸福なお前たちの父と母との祝福を胸にしめて人の世の旅に登れ」
タツノオトシゴを見ていると、母を亡くした子に於てた

父の手紙として書かれた、有島武郎の短編小説「小さき者へ」の一節を思い出します。
タツノオトシゴはそう見え

「袋の中を過します。その後、袋から出て懸命に泳ぎだす彼らの多くは、残念ながら大人になるまで生き延びることはできません。病気になるてしまったり、あるいは外敵に襲われたりして命を落とします。」
近年の研究で、病気やタツノオトシゴの赤ちゃんの生

態について多くのことがわかってきました。病気の原因などを調べることで、水族館などでは自然界より多くが大人へと成長できるようにになります。かこしま水族館でも水槽内で繁殖した赤ちゃんを展示していることがあります。彼らの多くが少しでも大きくなるよう、全力を尽くしていききたいと思っています。
「行け、勇んで。小さき者よ」
(展示課海獣展示係・濱野剛)